

# SS-iD シリーズ共通

## コマンドリファレンス

Ver. 1.01

### 重要事項

本マニュアルはシステムサコム工業株式会社製の ID 付き信号変換機(SS-iD シリーズ)をお使いいただくために必要な通信仕様に関して解説します。

### 免責事項

- 1) 本マニュアルの内容は予告なく変更することがあります。
- 2) 本マニュアルの一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- 3) 本マニュアルの内容は万全を期して作成いたしましたが、万が一ご不審な事やお気づきの事がございましたら、システムサコム工業株式会社までご連絡下さい。
- 4) 当社では本製品の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、上記に関わらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承下さい。
- 5) 本製品は、人命に関わる設備や機器、高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組込や制御などへの使用は意図されておりません。これら設備や機器などに本装置を使用され人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- 6) 本製品およびソフトウェアが外国為替及び外国貿易管理法の規定により戦略物資（又は役務）に該当する場合には日本国外へ輸出する際に日本国政府の輸出許可が必要です。

## 目次

|                                            |    |
|--------------------------------------------|----|
| 1. 概要 .....                                | 3  |
| 2. ID 切替コマンド .....                         | 4  |
| 3. 動作の詳細.....                              | 6  |
| 3.1 モード 0 .....                            | 6  |
| 3.2 モード 1 .....                            | 7  |
| 3.3 モード 2 .....                            | 8  |
| 3.4 モード 3 .....                            | 9  |
| 3.5 モード 4 .....                            | 10 |
| 3.6 モード 5 .....                            | 11 |
| 3.7 モード 6 .....                            | 12 |
| 3.8   モード 7 .....                          | 12 |
| 3.9 モード 8 (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) .....  | 13 |
| 3.10 モード 9 (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 14 |
| 3.11 モード A (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 15 |
| 3.12 モード B (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 16 |
| 3.13 モード C (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 17 |
| 3.14 モード D (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 18 |
| 3.15 モード E (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ) ..... | 19 |
| 3.16   モード F .....                         | 19 |

## 1. 概要

本仕様書は SS-iD シリーズの ID 機能を有効にした場合の制御コマンドを解説します。制御コマンドは SS-iD 本体 A 側に接続された PC などの制御機器から SS-iD 本体に送信し、コマンドに記述された指定 ID と SS-iD 本体の ID 設定ロータリースイッチと一致する場合に B 側との回線を接続します。コマンドに記述された指定 ID と一致しない場合は非選択状態となり、回線は閉じられます。

## 2. ID 切替コマンド

### 概要:

SS-iD シリーズは本体底面の設定ロータリースイッチ(RSW)により個体識別 ID を設定することができます。2 線式または 4 線式の RS-485 に複数台接続された SS-iD シリーズは本書で説明する切替コマンドにより選択/非選択されます。選択方法は以下の種類があります。

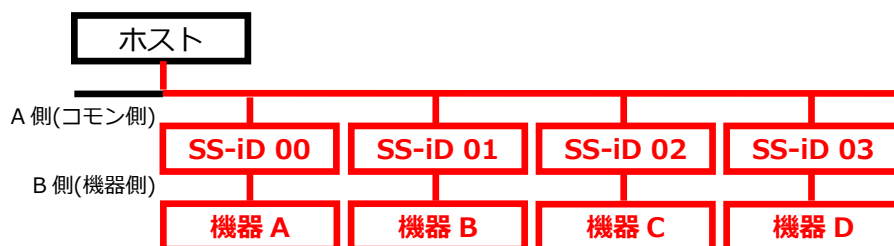
- 0: 動作モード 0:ID 選択切替なし。SS-iD は常に選択された状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD を接続することはできません。
- 1: 動作モード 1:STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信し、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。
- 2: 動作モード 2:STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。
- 3: 動作モード 3:ID をあらわす 1 バイトのコマンド(0x00~0x07)を A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。設定できる ID は 00~07 の 7 種類です。
- 4: 動作モード 4:STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信します。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。
- 5: 動作モード 5:STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

- 6: 動作モード 6:ID をあらわす 1 バイトのコマンド(0x00~0x07)を A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。設定できる ID は 00~07 の 7 種類です。
- 7: 動作モード 7:将来の機能拡張のために予約されています。ご使用にはなりません。
- 8: 動作モード 8:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 0 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 0 と同じ動作を行います。
- 9: 動作モード 9:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 1 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 1 と同じ動作を行います。
- A: 動作モード A:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 2 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 2 と同じ動作を行います。
- B: 動作モード B:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 3 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 3 と同じ動作を行います。
- C: 動作モード C:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 4 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 4 と同じ動作を行います。
- D: 動作モード D:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 5 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 5 と同じ動作を行います。
- E: 動作モード E:SS-iD 本体の B 側が RS-232C インターフェースを有する機種の場合、動作モード 6 に加え、CTS/RTS フロー制御が有効になります。本体の B 側が RS-422/RS-485/4 線式 RS-485 の場合は動作モード 6 と同じ動作を行います。
- F: 動作モード F:メンテナンス用途のため予約されています。ご使用にはなりません。

### 3. 動作の詳細

#### 3.1 モード 0

ID 選択切替は行わず、常に選択状態になっています。A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。切替コマンドを持たないため、0x00~0xFF の範囲の全てのバイナリーデータを取り扱うことができます。ただし A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD を接続する場合は、接続した全ての SS-iD とホスト側の PC などの機器の間は常に接続された状態になるため注意が必要です。



設定された ID に関係なく SS-iD 機器が選択された状態になります。ホスト PC からのデータは全ての SS-iD 機器に送られ、複数の SS-iD 機器からの同時応答はデータの衝突を起こします。一般的な RS-485 接続と同じです。

### 3.2 モード 1

STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信し、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00～FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD 機器を接続している場合、全ての SS-iD 機器が選択されます。その場合は ACK 応答の衝突回避のため、応答を返しません。

コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

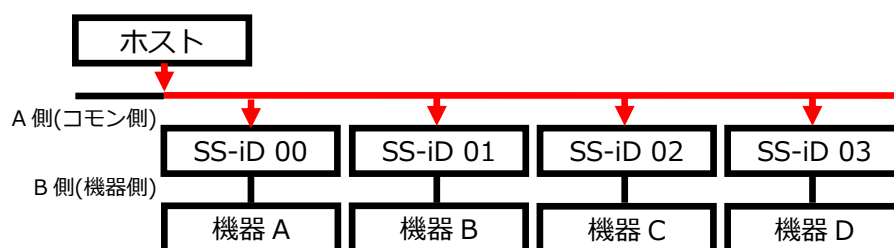
ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"～"FE", "FF"が指定できます。

応答

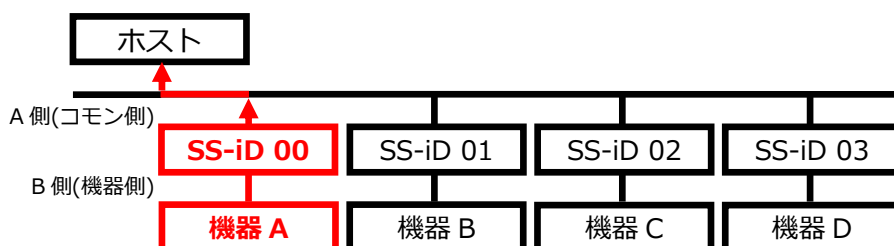
|     |
|-----|
| 0   |
| ACK |

ACK 1 バイト 肯定応答をあらわす ACK 文字(0x06)。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、ACK 応答を返し、データは透過状態になります。



### 3.3 モード 2

STX(0x02)と ID をあらかず 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00～FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。

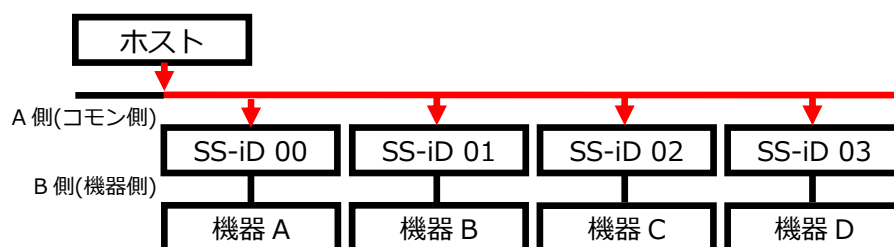
コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

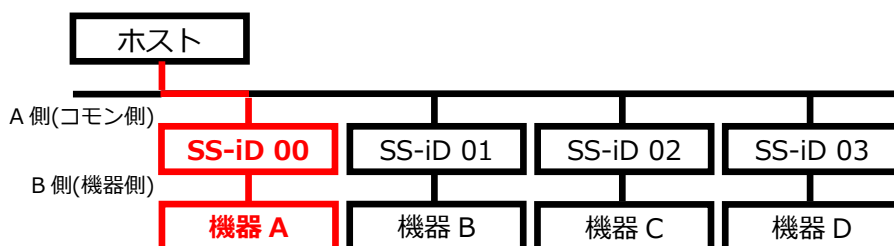
STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらかず 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"～"FE", "FF"が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。





### 3.4 モード 3

ID をあらわす 1 バイトのバイナリー値のコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00~07 です。

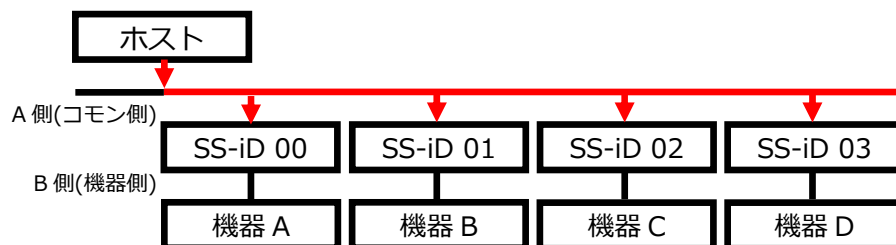
コマンド

0

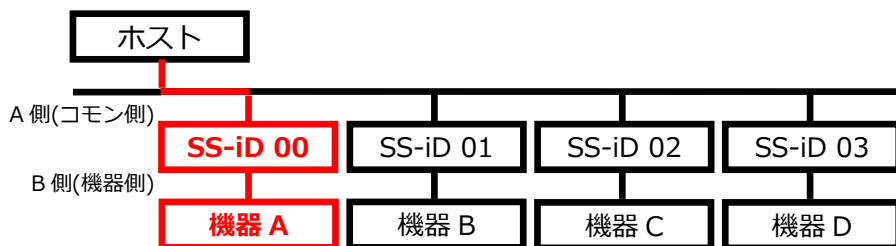
CMD

CMD 1 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数のバイナリー値。0x00~0x07 が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。



### 3.5 モード 4

STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信します。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00～FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD 機器を接続している場合、全ての SS-iD 機器が選択されます。その場合は ACK 応答の衝突回避のため、応答を返しません。

コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

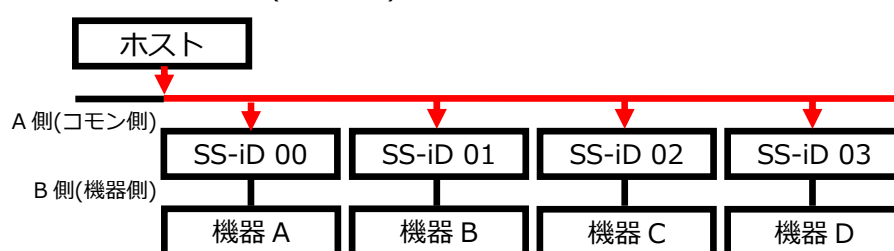
ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"～"FE", "FF"が指定できます。

応答

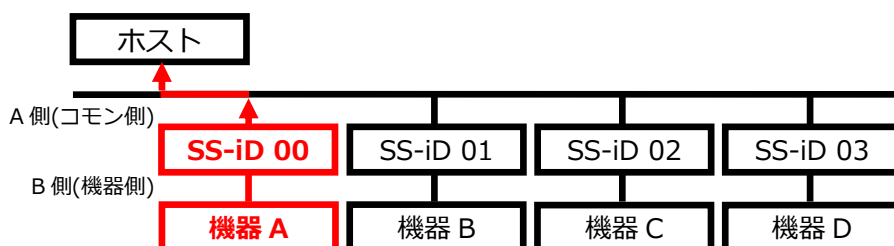
|     |
|-----|
| 0   |
| ACK |

ACK 1 バイト 肯定応答をあらわす ACK 文字(0x06)。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、ACK 応答を返し、データは透過状態になります。



### 3.6 モード 5

STX(0x02)と ID をあらかず 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00～FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。

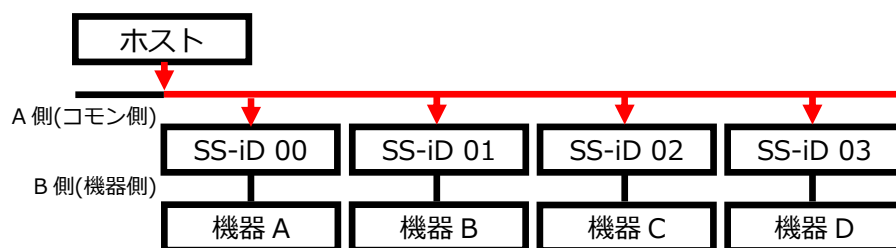
コマンド

| 0   | 1  | 2 |
|-----|----|---|
| STX | ID |   |

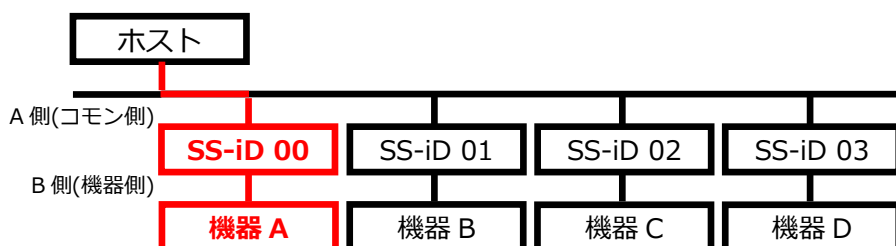
STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらかず 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"～"FE", "FF"が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。



### 3.7 モード 6

ID をあらわす 1 バイトのバイナリー値のコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。

指定できる ID は 00～07 です。

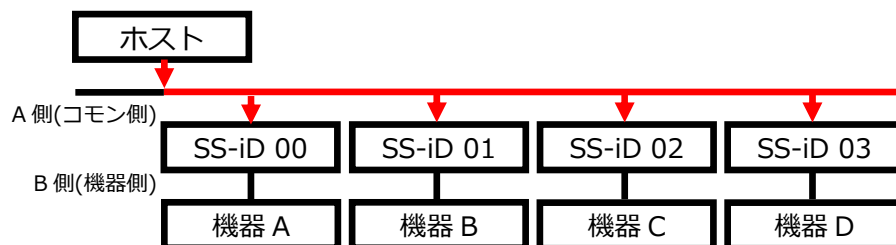
コマンド

0

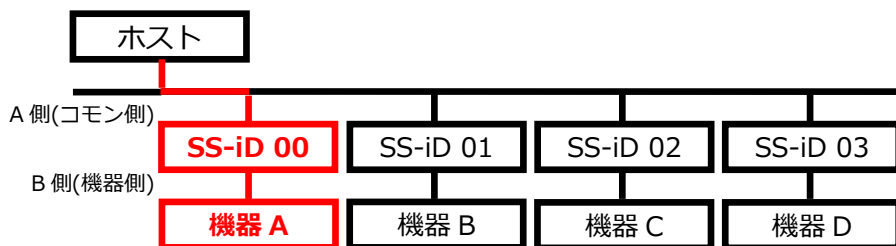
CMD

CMD 1 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数のバイナリー値。0x00～0x07 が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。

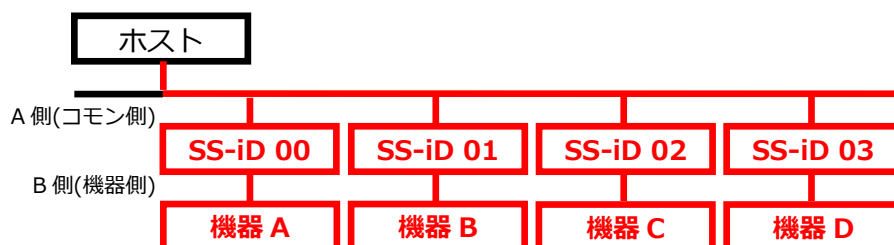


### 3.8 モード 7

将来の機能拡張のために予約されています。ご使用にはなれません。

### 3.9 モード 8 (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

ID 選択切替は行わず、常に選択状態になっています。A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。切替コマンドを持たないため、0x00~0xFF の範囲の全てのバイナリーデータを取り扱うことができます。ただし A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD を接続する場合は、接続した全ての SS-iD とホスト側の PC などの機器の間は常に接続された状態になるため注意が必要です。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。



設定された ID に関係なく SS-iD 機器が選択された状態になります。ホスト PC からのデータは全ての SS-iD 機器に送られ、複数の SS-iD 機器からの同時応答はデータの衝突を起こします。一般的な RS-485 接続と同じです。

### 3.10 モード 9 (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信し、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。

指定できる ID は 00~FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD 機器を接続している場合、全ての SS-iD 機器が選択されます。その場合は ACK 応答の衝突回避のため、応答を返しません。

コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

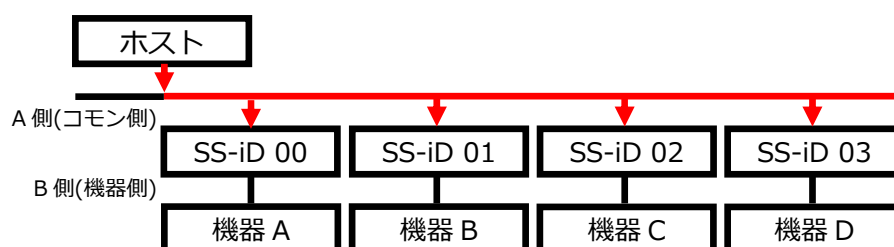
ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"~"FE", "FF"が指定できます。

応答

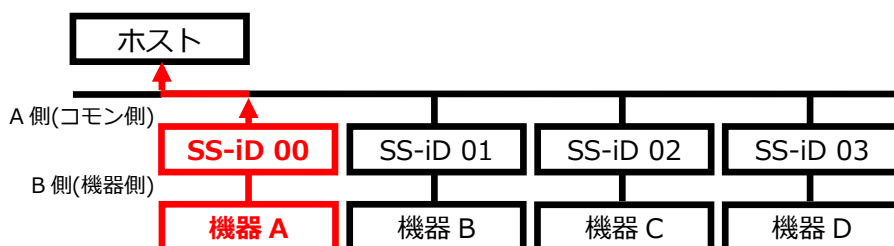
|     |
|-----|
| 0   |
| ACK |

ACK 1 バイト 肯定応答をあらわす ACK 文字(0x06)。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、ACK 応答を返し、データは透過状態になります。



### 3.11 モード A (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

STX(0x02)と ID をあらかず 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。指定できる ID は 00~FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。

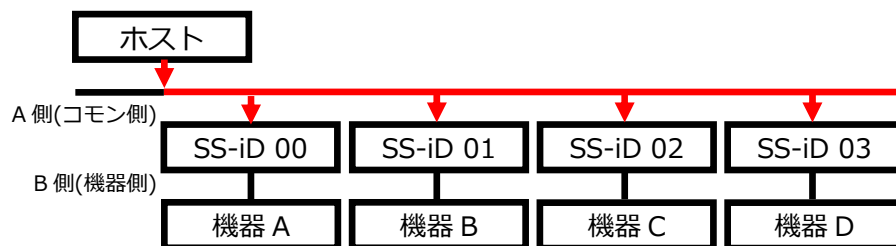
コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

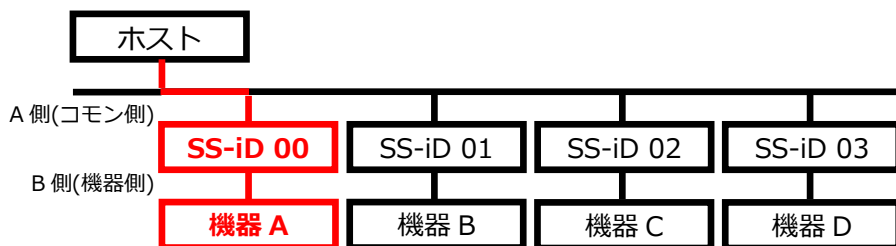
STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらかず 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"~"FE", "FF"が指定できます。

例: 選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。



### 3.12 モード B (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

ID をあらわす 1 バイトのバイナリー値のコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、B 側の受信バッファをクリアします。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。指定できる ID は 00~07 です。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。

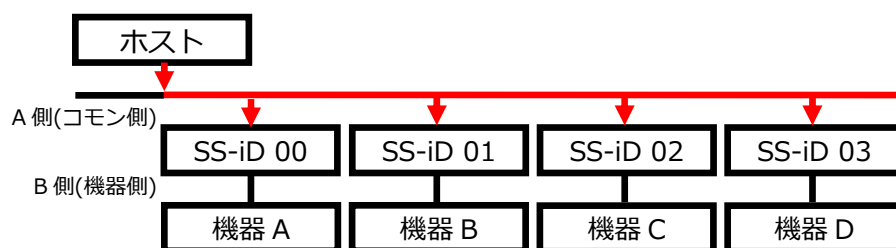
コマンド

0

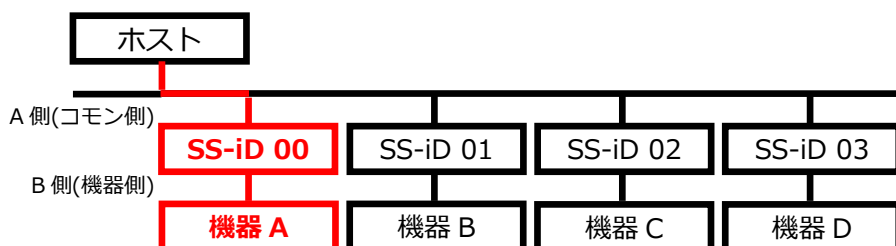
CMD

CMD 1 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数のバイナリー値。0x00~0x07 が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。





### 3.13 モード C (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

STX(0x02)と ID をあらわす 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。その際、SS-iD からは ACK(0x06)を A 側に送信します。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。指定できる ID は 00~FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。A 側の RS-485 回線に複数台の SS-iD 機器を接続している場合、全ての SS-iD 機器が選択されます。その場合は ACK 応答の衝突回避のため、応答を返しません。

コマンド

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 0   | 1  | 2 |
| STX | ID |   |

STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

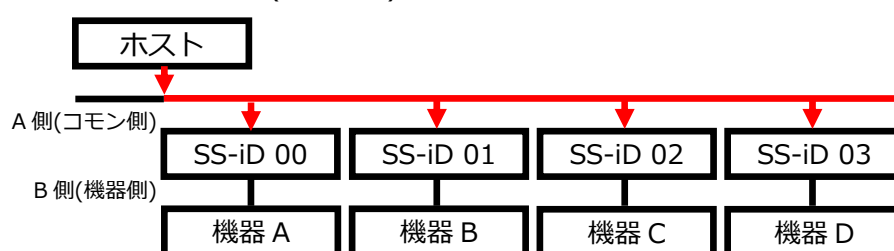
ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"~"FE", "FF"が指定できます。

応答

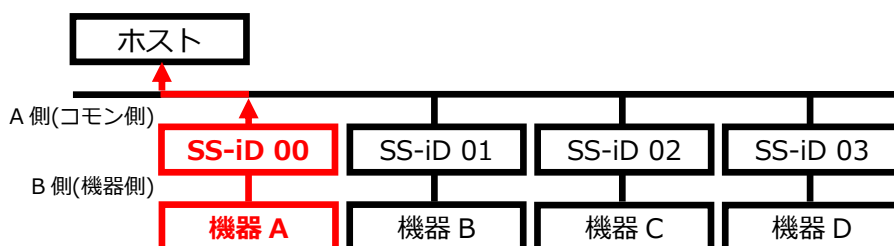
|     |
|-----|
| 0   |
| ACK |

ACK 1 バイト 肯定応答をあらわす ACK 文字(0x06)。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、ACK 応答を返し、データは透過状態になります。



### 3.14 モード D (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

STX(0x02)と ID をあらかず 2 バイトの ASCII 文字からなる 3 バイトのコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。

指定できる ID は 00~FE です。FF を指定すると SS-iD 機器に設定してある ID に関係なく、選択状態になります。

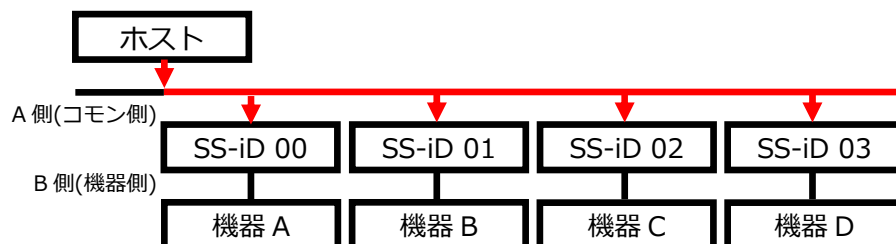
コマンド

| 0   | 1  | 2 |
|-----|----|---|
| STX | ID |   |

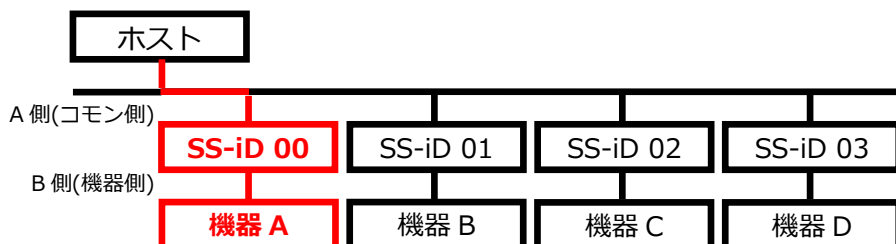
STX 1 バイト コマンド開始を表す STX 文字(0x02)。

ID 2 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらかず 16 進数 2 桁の ASCII 文字列。"00"~"FE", "FF"が指定できます。

例: 選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。



### 3.15 モード E (B 側(機器側)が RS-232C の機種のみ)

ID をあらわす 1 バイトのバイナリー値のコマンドを A 側の RS-485 回線に接続した機器から受信し、自 SS-iD に設定された ID と一致する場合には選択状態になり、A 側と B 側は内部バッファを通して透過状態になります。受信コマンドの ID と自 SS-iD に設定された ID が一致しない場合は非選択状態となり、A 側と B 側の通信は遮断されます。指定できる ID は 00~07 です。B 側(機器側)はハードウェアによる CTS/RTS フロー制御が有効になります。

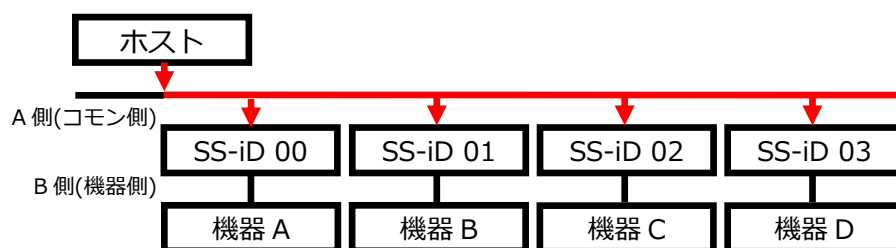
コマンド

0

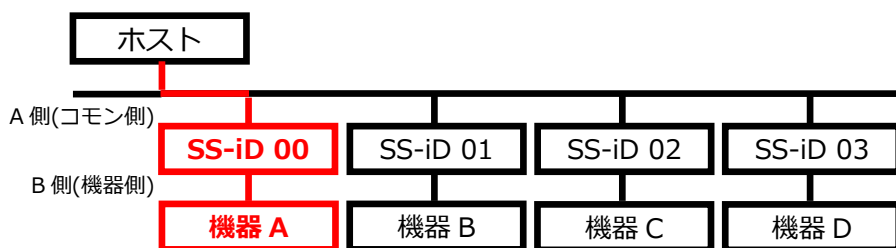
CMD

CMD 1 バイト SS-iD 機器の自 ID をあらわす 16 進数のバイナリー値。0x00~0x07 が指定できます。

例：選択コマンドを A 側(コモン側)から送信すると、接続されている SS-iD すべてが受信します。



選択コマンドで指定された ID と同じ ID を設定した SS-iD のみが回線を開き、データは透過状態になります。



### 3.16 モード F

将来の機能拡張のために予約されています。ご使用にはなりません。

システムサコム工業株式会社 <http://www.sacom.co.jp/>

〒130-0021 東京都墨田区緑 1-22-5 州ビル 4F

TEL:03-6659-9261 FAX:03-6659-9264 E-Mail:info@sacom.co.jp

20191121